

第 24 期 第 2 回 心理学・教育学委員会 社会のための心理学分科会 議事要旨

(記録者:河原)

日時：平成 30 年 8 月 10 日 16:30-18:30

場所：東京大学本郷キャンパス教育学研究科・教育学部棟第 1 会議室
(東京都文京区本郷 7-3-1)

出席 遠藤利彦, 阿部恒之, 池上知子, 河原純一郎, 桑野園子, 高瀬賢吉, 中島祥好, 箱田裕司, 原田悦子, 村田光二 (10 名)

欠席 蒲池みゆき, 仲真紀子, 長谷川寿一 (3 名)

議題

1. 前回議事要旨の確認
2. 次回日程について
3. 合同分科会

議事内容

1. 前回の議事録を確認した。

2. 次回は 12 月 14 日(金)15 時-17 時, 日本学術会議にて開催する予定となった。社会の心理学へ認識が改善されることによるキャリアパスの明確化, 心理学が社会へ貢献できるはずの目立たない選択肢を伝える資料などを見ながら、これからの活動状況についても報告する。

3. 合同分科会

チラシについて, 高瀬先生から説明があった。

事業概要・目的, 現状と課題, 課題解決への取り組み
事業イメージ・具体例, 社会接続を促進する「場」の構築
期待される効果

コメント

・原田 全体としては賛成。

誰がいつ作ったものかがわかるように, 日本学術会議(このメンバー)だけがやっているわけではなく, 各学会, 各大学, 教員がやっていることがわかるように, 心理学の学会も。

左上, “大学での心理学の学びが社会とどのように接点を持つか”のところを学部, 大学

院と並列にしたらよいのでは。日付は本日(平成 30 年 8 月 10 日)とする。

・学会の関与として明示してしまうとその学会の承認が必要なので、学会の協力が得られる環境にあることを示唆するくらいに留めておく。

・委員長 今後はこれを活用する。

菅原先生の資料説明

学習指導要領を 2017 年度に新指導要領告示, 2022 年度新入生から適用
幅広い知識をもとにした判断力, 活用力

1, 主体的・対話的で深い学びを実現する授業

2, 英語教育の充実

3, 教科横断的な新科目

公民科は公共, 倫理, 政治・経済

倫理が選択になるので履修者が減るかも, という危機感から心理学と抱き合わせ

3 年生, 理系, 上位校で人気

(高等学校・倫理[仮称])学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等

現在の公民科目, 倫理別添 3-15 の楕円部分の(1)に青年期の課題を公共へ移動する

高等学校学習指導要領解説に心理学が組み込まれたようすについて説明があった。

公民編 89 頁

A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方

(1)人間としての在り方生き方に心理学が関与

90 頁 ア次のような知識及び技能を身につけること (ア)個性, 感情, 認知, 発達などに着目して, 豊かな自己形成に向けて, 他者とともによりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手がかりとなるさまざまな人間の心のあり方について理解すること。

内容の取り扱い

イ(イ) 青年期の課題を踏まえ, 人格, 感情, 認知, 発達について心理学の考え方についても触れること

92 頁 個性, 感情, 認知, 発達などに着目して

個性は人間にはどのような性質の違いがあるのかなどについて思索するための視点である。

感情は, ものごとに対して起こる人間の気持ちにはどのような特徴があるのかなどについて

思索するための視点である。認知は、知覚・記憶・推論・問題解決といった人間の知的な活動にはそれぞれどのような特徴があるのか、などについて思索するための視点である。発達には、人間の心の機能は生涯にわたっていかに変化するのかなどについて思索するための視点である。

ここに書かれたものが教科書に入る。

93 頁

青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方についても触れながら理解を深めることができるようにする。

人格についての心理学、感情についての心理学、認知についての心理学、発達についての心理学というように、ここに心理学という学問領域の名前が入ることは希。

知識として習得させる指導で終わることがないように、思索を深める手がかりとして扱うように。

教科書に入れる具体的な項目の例

(ここにいろいろなひとが関与する)

遠藤先生の資料説明

高校教員、学部生 1 年生から聞き取り

心理学の専門的な紹介ができる教員が高校にはいない

高校生に対して教科で触れておきながら、それが心理学であることを知らない、気づいていない。

高校教員がやっていることとしてはまずは受験産業につなぐ、大学につなぐ(オープンキャンパス)、卒業生につなぐ、スクールカウンセラー

卒業論文を課す高校が徐々に増えてきている(高 2 で)、アクティブラーニングとして

高校生が触れやすいもの(資料 1-1, 1-2)

web サイト、書籍、

たいていは臨床心理学については触れている。基礎心理学については A3 資料のとおり。

基礎心理学に関する記述としてはおおむね妥当。

ただし、進路については記述が希薄。大半が臨床心理士、心理職。

公認心理師についてはwebでは河合塾のみ。書籍はいくつか記述はある。誤解を生む記述(大学の学科図鑑, 大学院進学が必要である)もある。

まとめとして

基礎心理学の説明としてはおおむね妥当。

職業に関しては, 将来展望が見えない記述

職種から逆引きしたときに心理学は臨床心理士と産業カウンセラーのみ。

高校生, 受験産業にどうやって情報提供するか。学部だけ?大学院進学前提?

区分 A, 区分 B

実務経験を積むところはいくつかありうる(かも)

国家公務員上級職に関しては記述なし。

鈴木

センター入試を受けない, 私立文系主体になってしまっている。理系にもアピールしていく必要がある。

実務経験ルートはそれほど広がらないのでは。

遠藤

進路指導の先生にしっかりわかってもらう必要がある。

学部で心理学を志向する学生はいるけれど公認心理師を受験するまでにはなかなかならない。

医療系に限らず, 保育系などは受験資格 B を活用していったほうがよいかもしれない。

村田先生の資料説明

入り口として大事なのは大学での入門教育・一般科目であって, その質を保証すること。

誤った心理学情報が多い

大学教育での心理学を充実させること。

心理学を知るための多様なルートを用意する

出口問題

心理学を生かせる就職先が乏しい？

社会のリーダー層への心理学の理解を深めてもらう。仮説検証の形式で考えること、数量的データを意思決定に取り入れられること。

心理学へのポジティブなステレオタイプを植え付ける作業をするわけではない。

心理学出身者が他分野へ行くのは好ましいこと

有望な進出先

ビジネススクール，ロースクール，脳・神経科学，工学，IR，URA

学部卒では心理学を知らない人に説明できる力を付ける。ビジネスに近い知識(行動経済学等)も身につけたほうがよい

PDCA のうち C がだいじ。これまでの実践フィードバックを利用したならば

(楠見，他分野専門でも学部の心理学の授業を履修することで心理学への理解が大きく違う)

以上